実践研究報告

特別支援学校高等部の生徒が
スムーズに教室移動するための指導

①対象生徒の実態

- 高等部生徒　知的障がい
- 発達年齢：1歳7ヶ月
- 床をたたいたり、指を動かして眺めたりして感覚刺激をよくいれている。
- 聴覚優位で、知っている歌やCMのフレーズ、単語などを口ずさむ。
- 落ち着いている時は、20～30分程度座って活動できる。
- 登下校時の靴の着脱や着替え等のルーティンとなっている活動は、少ない支援でできることが多い。
- 昼食前、下校前になると不安定になり、教員への他害（頭突き、たたく、つねる、ける、噛みつく、ひっかく等）が見られることがある。
- 教室移動時、廊下に座り込んだり、教員に他害をしたりして拒否的な反応を示すことが多い。

②教員の願い

【現状】

言葉かけや身体的支援で教室移動を促すが、寝転んだまま動かなかったり、拒否的な反応（教員への他害等）を強く示したりする場面が多く見られる。

↓

【担任のニーズ】

教室移動をスムーズにできるようになって欲しい。

③アドバイザーからの助言（PTRモデル）

P – Prevent（予防）・・・適切な行動を増やす（問題行動を予防する）
T – Teach（指導）・・・適切な行動を教える
R – Reinforce（強化）・・・適切な行動を増やす

PTRモデル・・・個別支援のための事例検討を効果的に行うためのモデル。チームで支援にあたる。不適切な行動の機能的アセスメント（行動の理由）から、なぜその行動が起きているのかの仮説を立てて、支援方法を計画する。データを収集して振り返り、支援の実行度や効果を検証しながら支援を進めていく。

③アドバイザーからの助言（PTRモデル）

PTRモデルの支援内容一覧から、「教室移動の指導」を行う上で実践できそうな支援内容を実践者がいくつかピックアップ。

【P（予防）】

〇移行支援・・・音楽を聴かせて移動、移動するビデオを見せてから移動（一人称視点or三人称視点）

〇セッティング事象の修正・・・生理的現象（空腹・眠気など）

〇課題の要求内容・カリキュラムの変更

・・・1つ目の課題は好きな内容からスタート、本人にとって意義のあるもの

【T（指導）】

〇機能的に等価なコミュニケーション・・・問題行動に代わる適切なコミュニケーション

【R（強化）】

〇代替行動の強化・・・暴れる（他害）ではなく「待って」と言う→教員は〇分間促すのを待つ

スムーズに移動できた時にお菓子がもらえる

③アドバイザーからの助言（PTRモデル）

実践しやすく、かつ効果的であると思われる支援内容をチームで話し合い2つに絞る。

【P（予防）】

〇移行支援・・・音楽を聴かせて移動

【R（強化）】

〇代替行動の強化・・・スムーズに移動できた時にお菓子がもらえる

↓

上記2つの支援内容を指導手続きに含め、指導目標を「スムーズに（寝転んだり他害したりせずに）教室移動ができる。」とし、実践に移る。

④指導手続き

対象生徒の授業担当の教員に指導場面のリハーサルを行い、支援方法の確認を行った。

①移動用BGMが録音されたボイスレコーダーを準備する。
②チャイムが鳴る約１分前に「もうすぐ鳴るよ」と予告の言葉かけをする。
③チャイムが鳴り始めたタイミングで移動用BGMを流す。
④「美術室」「音楽室」のように次の移動先の教室名を単語で伝える。
（30秒ほど経っても座ったままであれば身体的支援で移動を促す）
⑤BGMを流したまま、教員は移動を後方から見守る。
⑥移動先の教室前まで到着したタイミングでBGMを止める。
⑦教室の座席に座ったら「がんばったね」と言葉かけ、ごほうびのお菓子を渡す。

⑤記録方法（改善前）

・記録用紙に記入する形でベースラインをとっていたが、授業者（記録者）の入れ替わりが頻繁にあるため記録が毎回とれなかった。また記録する項目が多かったため、記録者にとってやや負担も大きかった可能性がある。

行動記録（ ○…一人で、あるいは支援を受けて移動できた場合
×…支援を受けても動かない、拒否的な反応、移動途中で別の場所に走り出す等の場合 ）

6月15日	○・×	教員名	どこからどこへ	支援方法	備考欄
例	×		教室～美術室	言葉かけ　指さし 身体的支援	抱えて立たせようとしたが拒否。 １０分ほど経ち改めて同じ支援をすると移動できる。
休憩－３校時	○		教室～美術室	言葉かけ　指さし 身体的支援	
３校時－休憩	－		～	言葉かけ　指さし 身体的支援	移動なし
休憩－４校時	－		～	言葉かけ　指さし 身体的支援	移動なし
４校時－給食	○		美術室～教室	言葉かけ　指さし 身体的支援	

教室移動の行動記録

⑤記録方法（改善後）

・実践を開始した9月以降、記録方法を以下のように変更。

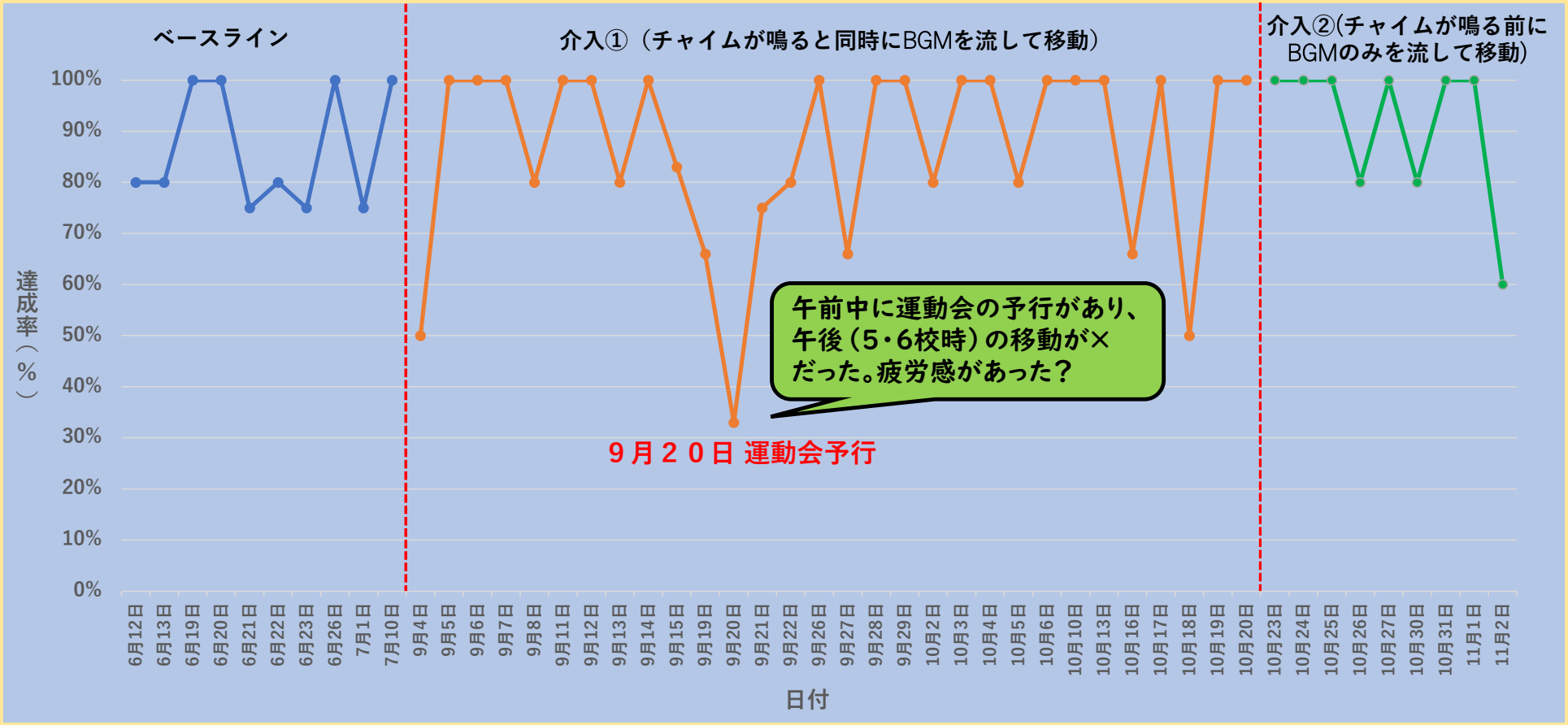
① 授業者（記録者）は指導の際、一口サイズのお菓子が入った薬ケース（6区切り）を携帯し、目標を達成したとき薬ケースから1つお菓子を渡す（例：3校時開始時の移動で達成した場合は「3」からお菓子を取り出して渡す）。

② 放課後に担任が薬ケースを確認する。お菓子が入っていない時間は達成、入っている時間は達成していないと判断し記録用紙に記入する。

達成率66%
（6分の4 達成）

※ただし移動がない授業もあるため、時間割を確認しながら達成率を出す。

⑥結果（1）



教室移動達成率（推移）

⑥結果（2）

達成率100%の日数の割合も、
50%（9月）→66%（10・11月）に
上がっている。

９月（１８日間）		１０～１１月（２１日間）	
100%	９日	100%	１４日
83%	１日	80%	４日
80%	３日	66%	１日
75%	１日	60%	１日
66%	２日	50%	１日
50%	１日		
33%	１日		
１日平均・・・８４％		１日平均・・・９０％	

時間の経過とともに、
1日平均の達成率が
上がっている。

教室移動達成率（月別）

⑥結果（3）

給食前（4校時）や午後（5・6校時）になると達成率が下がっている。

教室移動達成率（校時別）

⑦結果より

- 日別の教室移動達成率（推移）のグラフ［結果（1）］においては変化が読み取りづらかったが、月別に記録をまとめてみると、取り組み始めた最初の1ヶ月間（9月）とそれ以降（10～11月）を比較することで、達成率が上昇していることが明確となった。このことから、**試行回数を繰り返し積み重ねること**が対象生徒にとって重要であったと考えられる。
- 時間帯別の達成率［結果（3）］においては、給食前や午後の時間帯に達成率が低くなっている。給食前に「ごはん」と繰り返し言ったり、午後の授業中に眠りに落ちたりする場面が見られるため、空腹や疲労等の生理的な面が理由として推測される。

⑧考察

- 余暇活動から授業の切り替えに、他生徒と共有のチャイムやタイマーでなく、対象生徒のみのBGMを使用したことで、「この音が鳴ったら移動して授業が始まる」ということを意識しやすくなったように感じる。
- BGMを流す前に言葉かけで事前予告し（「もうすぐ鳴るよ」）、流れ始めてからも30秒間待つように指導手続きを設定したことで、対象生徒自身の**自発的な行動**（自ら立ち上がる等）が見られるようになった。それに伴い、身体的支援の数も減少した。
- ロールプレイを通して、生徒に関わる教員が支援方法を具体的に共有したことで、**支援が統一**された。これにより教員の支援に一貫性が生まれ、対象生徒も教員の指示が理解しやすくなったのではないかと推測される。
- 記録方法についても、「用紙への記入式」→「お菓子の残数の確認」に変更したことで、誰もが分かりやすく、記録も取りやすくなった。
- 実践を通し、以前よりもスムーズに移動する姿が見られるようになった。対象生徒にとっては、**「①聴覚的な支援②パターン化する③試行回数を重ねる」ことが効果的である**と思われる。
- 授業中など他の場面においては不適切な行動（離席、他害等）が見られるため、実践を通して効果的であった支援方法を活用し、適切な行動を増やしていくことが今後の課題である。